

議長 会議を再開いたします。 (午前10時20分)

々 これより、中平議員の一般質問を行います。2番中平議員。

2番 中平議員 皆さん、おはようございます。2番中平でございます。新型コロナ感染防止のためのワクチン接種が全国的に進みつつもあるものの、いまだに収束の兆しは見え、島根県においても連日のように感染者が出ておりますが、全国最小を保っております。これは、県民の感染対策への熱心な取り組みのたまものだと思っております。さて、去る8月7日の新聞報道で、川本町の不祥事が報じられました。しかし、この日開催されましたJ Aカップ島根県学童軟式野球選手権大会 江津邑智地区予選で、川本中央スピリッツが準決勝で邑智を5対0。決勝では、郷田を7対1で下し優勝し、県大会出場を決めました。2試合ともスタンドで応援しておりましたが、見事な試合内容でした。翌日の新聞には、川本が見事初Vと報道され救われた気分になりました。その後も、川本中学校吹奏楽部、島根中央高校吹奏楽部が共に中国大会に出場し、金賞を受賞しております。また島根中央高校カヌー部は、インターハイにおいて、カヌースプリントカヤックフォア200メートルで優勝するなど、好成績を収めております。児童生徒の活躍を目の当たりにし、大人ももっとしっかりしないといけないと思った次第です。

少し前置きが長くなりましたが、通告書に基づき2点の問題を質問いたします。どうぞよろしく申し上げます。

1点目は、因原地区の内水対策について問うものです。8月13日から15日にかけて、前線の停滞による大雨により因原地区において、堤防内の内水により、国道261号線が冠水し、ドラッグストアやホームセンター、パチンコ店とその宿舎にも雨水が侵入しました。2018年、2020年の大雨でも発生しており、ここ4年で3度目の被害に遭っております。この結果を見れば、現状の内水対策が不十分であることは明らかであります。さらにこの沿線には、他にも商業施設や高齢者施設が集積しており、建物への浸水は免れたものの、道路の冠水により一時孤立しました。今回ポンプ車は、町の要請を待つことなく、迅速に配備されました。これは国土交通省が、今度こそ被害を出してはいけないとの強い決意の表れだと思いました。しかしながら、被害は起きてしまいました。町長はこの現状をどう受けとめ、今後の対策についてどのように考えておられるのかをお聞きしたい。

2点目は、道の駅の改修問題について問うでございます。因原の道の駅は、コロナの影響で減ったとはいえ、令和2年度においても年間10万人が利用している人気の施設であり、交流人口、関係人口の創出に大きく貢献しておりますが、利用者からはかねてから駐車場の手狭さが指摘されており、また、公園として利用できれば良いという意見もあります。道の駅は、観光協会のおすすめスポットの1番目に挙げられており、まさに川本町の顔であると認

2番  
中平議員 識しております。因原地内の三江線の跡地を取得した時点で、道の駅の整備が考えられていたと思われませんが、町としての今後の考えを問うものでございます。以上、2点よろしく申し上げます。

議 長 それでは、中平議員の質問のうち、1項目めの「因原地区の内水対策について問う」に対する答弁をお願いします。番外湯浅総務財政課長。

番外湯浅総務財政課長 中平議員ご質問の1項目め、「因原地区の内水対策について問う」にお答えします。因原地区におきましては、重要な幹線道路の国道261号線や高齢者福祉施設、商業店舗などが集積していることから、江の川の増水時の内水排除は極めて重要な対策であります。本町では、平成30年7月の西日本豪雨、昨年7月の氾濫に続き、4年間で3度目の被災となり、このところ毎年のように内水排除対策を発動しております。現状、国による排水ポンプ2台、搭載ポンプは12機であります。それと、町で設置した排水ポンプ4台での対応となっておりますが、全体の排水能力は、地区の浸水面積、冠水状態となった時間など勘案いたしますと、議員ご指摘のように不足しているものと思われまます。対応するため、主力の国によるポンプを補完的にしている町によるポンプが経年していることから、来年の出水期に備え確実な運転と能力の維持に必要な更新費用を今議会に補正予算案として提出しているところです。このたびの被災の状況につきましては、豪雨災害後の8月23日に調査いただきました丸山知事や県議会議長、邑智郡選出議員をはじめとする県会議員に対しまして、現地の当日の状況を説明した上で、江の川本線の治水対策の加速化に加えて内水対策の抜本的な改善を国に対して要請していただくよう強く訴えたところでもあります。また、9月13日には、丸山知事、流域の市町と共に、中国地域整備局に対して緊急要望を行います。さらに、10月22日には、町単独で予定している県に対する重点要望の場におきましても、国への働きかけを要請してまいります。こうして、国に対して抜本的な能力増強に向けて働き掛けてまいります。町として執るべき行動などについて、地元や国土交通省、川本出張所との意見交換などを踏まえながら、今後の対策を進めてまいりたいと考えております。

議 長 ただいまの答弁に対しまして質問ありますか。2番中平議員。

2番  
中平議員 国による排水ポンプ車、これの作業現場の声をですね、どの程度聞いておられるのかお聞きしたいです。

議 長 番外湯浅総務財政課長。

番外湯浅総務財政課長 断片的にですね、多少声をお聞きしております。国のポンプはですね、常設のものではなくて、現場に来られてポンプをですね、水中に浮かしたよう

番外湯浅総務財政課長

な形で排水作業を行いますので、固定しておりませんのでポンプ同士が干渉するというような事もお聞きしております。また洪水時ですので、川にいろいろゴミですとか瓦れきというような物も流れてきますので、そういったゴミの影響によりまして、その除去といたしますか、そういったところで停止をする事があつたりというようなことをお聞きしております。これは実際にいろんな意見交換など確認しなければいけません、現状といたしますか今回のところでは、十分に能力その30トン×2の60トン<sup>かけ</sup>のところが発揮できていたのかどうかというところは、少し確認をしなければいけないなというふうに感じております。

議長

再質問がありますか。2番中平議員。

2番  
中平議員  
議長

今後、現場の声を聞くという場を設けるという事はあるのでしょうか。  
番外湯浅総務財政課長。

番外湯浅総務財政課長

平成30年、それで昨年と今年度と立て続けに内水排除対策を発動しております。その年それぞれにいろいろな問題ですとか課題というのが発生いたしまして、実際に現場に携わっておられる方、様々な改善すべきところなど、把握はしておられるものと認識しております。また多少そういった声も上がってきておりますので、今後の抜本的な対策を進めるに当たりましては、そういった地元の声、それから実際に作業にあたる声、そして行政、国など、そういった関係する方の意見をお聞きしながら、今後の対策を進めていくべきであろうというふうに考えておりますので、この災害が終わったところでの課題など、現場の声を聞く機会というものは設けていくべきだろうという思っておりますので、計画したいというふうに思っております。

議長

再質問がありますか。2番中平議員。

2番  
中平議員

是非そういう場を設けていただきたいと思います。私の方の耳に入っているところでは先ほど課長の答弁にありましたように、ゴミが流れてくるといのがポンプが吸い上げて、正直言うと出力を抑えて動かしておるので、その30トン×2の能力は発揮していないんじゃないかと思われま。その対策については、町のような1個1個独立したところでゴミを吸わないように排出するのか、周りにフェンスを張ってゴミが配水場へ流れ込まないようにするのかその辺のことは、専門家等の協議等で対策をしていただきたいと思。それから今の現場で動かして現場の作業員がいろいろ途中の段階です、いろいろポンプの操作員に「ああした方がいいんじゃないの」「こうした方がいいんじゃないか」と言っても、なかなかその場の作業員が全権を任されてないというような状況でございまして、いちいち国交省の方へ

2番  
中平議員 連絡をとって対応しないといけないとか、そういったところも多少それが許されるところがどこまでかは分かりませんが、そういうところも現場の声としてあっております。町のポンプの整備状況について伺いますが、出水期までにどういったことをされておるのかですけど。

議 長 番外湯浅総務財政課長。

番外湯浅総務財政課長 町の設置したポンプはですね、配管だけは常設しておりますが、ポンプそれからポンプを動かす電源につきまして、すいません。ポンプと配管は常設しておりますが、ポンプを動かす電源は、格納しておりますので、出水期に備えまして、電源を現地に運搬して電源とそれからポンプの稼働が適切に動くかという事前の確認をしております。それから操作員等がですね、実際にそのポンプの稼働についての確認といいますか点検を、それこそこのボタンでエンジンが動くですとか、そういったところ1から動きを確認して、災害に出水期にに備えた訓練などしております。

議 長 2番中平議員。

2番  
中平議員 町のポンプに対しては今のようなことは聞いておりますし、出水期の前に、職員でゴミを取り除いたりして万全に備えておるということは聞いております。たいへん大事なことですので、引き続きその対処はしていただきたいと思っております。それで今議会の補正予算案として提出されておりますポンプの更新ですけど、これは現状の能力のものを更新するというふうに提出されてますが、もう少し能力の大きなものを検討されてはどうかと思うんですが、発電機等の絡みもあるかも知れませんが、その辺はどうお考えでしょうか。

議 長 番外湯浅総務財政課長。

番外湯浅総務財政課長 この度の補正予算案に計上させていただいておりますが、ポンプのですね、容量は現状どおりの毎分4トンという仕様ですが、それが配管ですね、こちらに合うポンプが、もうワンサイズ大きい5トンですと、配管とマッチングできるということで、ジョイントなどを付ければもう少し大きなものもできるかも知れませんが、それが1点と、それから電源がですね、ポンプの容量が大きくなった時に稼働できるかというところがございますので、電源の方はですね、今調査をしております。それでポンプが大きく、若干大きくしたところで予算的に間に合わん間に合うのかといったところを、現在調査しておりますので、その中で最大限適切なものを、この予算の中で実施していきたいというふうに思っております。

議 長 2番中平議員。

2番  
中平議員

その点については是非検討していただいてですね、能力のあるポンプをぜひ据えてもらいたいと思います。またこのポンプの設置場所についてですけども、通常から地面に近いところに設置をされておるということで、普通の水の流れの中でゴミだらけになってるというような声も聞いておりますので、その辺についてもですね設置する場合、業者としっかり検証しながらですね、設置させていただきたいと思います。また、森林組合があります上の方の部分ですけども、あそこでですね樋門がありますが、あの辺のところにもう最低でももう1基、町のポンプが常設で付けていただけないのかなと思います。消防団のポンプで急遽ポンプ2台動かして夜遅くまで排水していただきましたけども、やっぱりほとんど水位が下がらないような状態が見えております。それからそこは樋門の高さ、樋門の底からですね、約2メートルぐらい水が溜まらないと下の方へ流れないような側溝の構造になっておりまして、かなり道路のギリギリまで水が溜まらないと下流部に流れないというようなことになってますので、あの辺はですねちょっと町の排水ポンプでも取り付けて、水があれより下流に行かないようにするだけでも随分効果があると思うんですが、その辺はどうお考えでしょうか。

議 長

番外湯浅総務財政課長。

番外湯浅総  
務財政課長

先ほど言われた森林組合のところ、因原の第3樋門の場所になります。こちらはですね消防団のポンプの方で排水していただいておりますが、水中ポンプに比べると随分と能力的に違いますので、これは因原地区全体の内水排除の事柄として捉えて、今後その対策をしていくべきものだろうというふうに考えておりますので、今後ですね、いろいろな調査をしながら適切な対策を計画していきたいというふうに思っております。

議 長

2番中平議員。

2番  
中平議員

是非お願いしたいと思います。あと昨年の意見交換会でもちょっと意見が出たはずなんですけど、ジュンテンドーの裏に溜まった水を排水ポンプで排水してるわけですけども、ジュンテンドー前の農道があります。あそこまでは小さい水路でしか繋がっておりませんので、なかなか中間どころの排水場まで水が溜まっていけない。あれがちょっと地元の要望の中に出てましたが、もうちょっと大きな水路で、中間地点の排水場まで繋がっておれば、下の水が農道を越えるまでの水が出なくても排水ができるんじゃないか、排水ポンプの稼働ができるんじゃないかという声もありましたので、まあ最初に言いました地元の意見をいろいろ聞かれたら必ず出てくることだと思います。そういった面では、よく地元の声を聞いていただきたいなと思います。抜本的な対策としてはですね、工期と費用が掛っても、弓市地区にあるような排水場ですね、あれと同等の常設の設備が望ましいとは考えております。知事が

2番  
中平議員

視察された所を私も同行しましたが、知事の方の口からも抜本的な対策には、工期と予算がかなり必要になるが、細かい要望、対処できるものは対処していきたいというような声を聞いておりますので、是非その辺は考えてもらいたいと思います。また、これは無堤防地区の問題なんかもありまして、国全体の予算の拡充、これがないとなかなか順番が回ってこないといいますが、取り合いになってる状態だと思いますので、この辺についても是非、町長から県・国に向けてですね、県と一緒に運動していただきたいと思っております。全体的なことについて町長から回答いただきたいと思いますが、お願いします。

議 長

番外野坂町長。

番外  
野坂町長

この因原地区の内水対策はですね、この因原地域のこの町だけではなくてですね、この圏域に与える重要性、陰陽の交通連絡拠点であり商業集積があり高齢者施設があると、そういったことからですね、大変重要な課題であります。議員仰いましたように、8月23日は知事のところに一緒に訴えてまいりました。先ほどご紹介ありましたとおり知事の方の受けとめであります。私の方はですね、ちょっとこの度の内水被害が出た背景若干触れておきますと、昨年ですね、昨年7月14日だったと思いますが、これは川本観測所の水位は12メートル98センチだったと思います。この度は8月14日は、最高水位が夕方の水位が11メートル19センチだったと思います。ほぼ私の背丈ほどこの度は水位が低かったにもかかわらずですね、内水被害が出た背景としましては、ひとつは8月14日の最高水位の時間11メートル19前後してですね、11メートル15センチぐらいの最高水位が1時間半も続いたというのが一つあります。昨年はピークがすぐ下がった。今年はその台形上にこの最高水位が続いたというのが一つあります。同時にこの最高水位を示している時にですね、この私たちの町でですね、降雨が非常に降ったということですので樋門を長く開けておかなくちゃならない上に、そこに降ったんで、どんどん内水が溜まったと。更にですね、昨年との違いはですね、この最高水位11メートル19になる前の、いわゆる前日の水位がですね、これ6メートル弱までしか下がっておりません。通常が一番低い水位じゃなくて前日の水位が高いところにそういう状態になったということでもあります。全体の中で2つのことに加えて元々のベースが、2日に渡ったということで違ったということでもあります。実は昨日、これ皆さん方、決算特別委員会の席でありましたので、私の方にも急遽話が入りまして、これは国交省とそれから建設業協会が主導的に対応されて国の参議院議員の国土交通省出身の河川の専門家の参議院議員がご視察に入られました。足立敏之<sup>あだちとしゆき</sup>先生が現地に入ってくださいました。私も急遽、すぐ参りまして今のような実情を申し上げましたが、その際にですね国交省が説明資料にですね、私どもの町の総務財政課の職員が分析した、今の昨年と違いと言ったような資料もです

番外  
野坂町長

ね国交省の方が取り上げていただいて、その説明資料に盛り込みましたこと  
もありまして、この足立参議院議員からですね、もともと河川の専門家であ  
りますけども、本線対策と内水対策は一体的にやらねば、これは国家的イン  
フラとしてやっていかねばならないと、よくよく事情わかったということ  
がありました。そのような動きもしておりますので、しっかりと県と一緒にな  
ってですね、国に対策を、そして理想は川本地区にありますようなこのもの  
が理想でしょうけども、やはりそれ工期と費用がかかります。そうなる前の  
応急対策の方を国の方に、ポンプの増強をまずやっていただくということ  
をお願いしていきたいと思っております。そのうえで町として、今、仰いまし  
たいろんなことがですね、現場のいわゆるハンドリングの中で解決できるこ  
とは、しっかりと検討してまいりたいというふうに考えております。

議 長

再質問がありますか。2番中平議員。

2番  
中平議員

そういう方向性で是非、力強く進めていただきたいと思います。これでこ  
の質問を終わります。これで終わります。

議 長

以上で、1項目めの「因原地区の内水対策について問う」の質問を終了い  
たします。

々

次に、2項目めの「道の駅改修問題について問う」に対する答弁をお願い  
します。番外名原産業振興課長。

番外名原産  
業振興課長

中平議員の2項目め、「道の駅の改修問題について問う」にお答えします。  
道の駅インフォメーションセンターかわもとは、平成7年度に、農林水産省  
の中山間地域総合整備事業を導入して整備し、平成19年8月には、県内2  
2番目となる、国土交通省所管の道の駅として登録されました。現在、株  
会社ドリムかもんが指定管理者として施設を運営されておりますが、設置  
以来25年が経過し、議員ご指摘のとおり施設の老朽化や十分な駐車場の確  
保等が課題となっております。こうした中、平成30年4月のJR三江線廃  
止に伴って、当時設置された検討委員会により、因原地内については隣接す  
る道の駅を拡充する方向性が示されたことを受けて、旧JR因原駅周辺の鉄  
道用地をJR西日本から取得したという経緯がございます。また、現在、近  
隣で進められております道の駅の新設や再整備が本町の道の駅へ与える影響  
も考慮いたしますと、大規模改修等に向けた検討が不可欠な段階となつてお  
ります。こうした状況を踏まえ、この度策定いたしました第6次川本町総合  
計画におきましては、重点プロジェクト4、地域資源を活かした付加価値の  
創出における取り組み方針の一つを、道の駅の販売促進・情報発信を強化す  
るとし、取り組む内容に道の駅の大規模改修を上げております。現在、産業  
振興課を中心としたプロジェクト会議において、前期計画期間内の取り組み

番外名原産  
業振興課長 の内容について検討を進めているところでございます。陰陽の交通の要所に立地し、周辺地域を含めた経済循環を牽引するこの施設が、地域の活性化に寄与できるよう、今後の方向づけを行ってまいりたいと考えております。

議 長 　　ただいまの答弁に対して、質問がありますか。2番中平議員。

2番  
中平議員 　　この問題につきましては、私が昨年の9月議会でも質問した内容でございまして、その時の回答は、今後の改修計画に向けてのベースとなるものを課内で検討したが、町内の全施設を見回しての対策が必要という観点と、総合計画との関連、そういったところを含めて、道の駅単体での動きではなくて、全体を見回しての検討、対策が必要であるとし、具体的な改修計画は未だないとの回答がありました。これに対しまして先ほどの答弁を聞きますと、かなり検討が進んできたのかなという印象を受けております。道の駅の役割はですね多様でありまして、国土交通省の資料をちょっと紹介させていただきますと、1993年からの第1ステージ、これは通過する道路利用者のサービス提供の場ということでしたが、2013年からの第2ステージは、道の駅自体が目的地となりまして、今度2020年から2025年で設定されております第3ステージ、これでは地方創生・観光を加速する拠点へプラスネットワーク化で活力ある地域デザインにも貢献するとあります。この第3ステージについての見解は如何でしょうか。

議 長 　　番外名原産業振興課長。

番外名原産  
業振興課長 　　道の駅の第3ステージについてのお話でございますけれども、2020年から国土交通省が地方創生・観光を加速する拠点。それから地域との交流促進、それと防災拠点などを打ち出しておられます。こうした動きをですね我々も今後のですね、大規模改修に活かせるようにどういったものを取り入れていけるかっていうところは、研究してまいりたいと考えております。

議 長 　　2番中平議員。

2番  
中平議員 　　そのような見解が出ているのをご存知だったと思います。この第3ステージについてですね有識者からの提言が出ております。地域社会のさらなる発展のため、全国の道の駅に期待する今後の役割について、大きな方向性を示したものでございまして、引き続き道の駅の設置者や運営者との丁寧な議論を進め、内容の深化進化に努めることが重要である。一方、個別の道の駅に目を向けると、人手不足、担い手不足の中で、多くの利用者を受け入れるため、多くの業務等を日々実施している厳しい実情がある。また、制度創設から四半世紀が経過し、多くの施設でリニューアルが必要となっている課題もある。このような現状において、各道の駅だけの努力に委ねるのでは、20



2番  
中平議員 25年に目指す姿を実現することは困難であり、国からの支援等もあわせて充実すべきであるとされております。昨年このような観点からか、国土交通省の方から因原の道の駅に対しても、何か提案があれば聞きたいというようなことで訪ねて来られたと思うんですが、その時はどのような内容のお話があったんでしょうか。

議長 番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長 今、仰いましたように昨年、国土交通省の浜田河川国道事務所の方が、来庁されております。道の駅の連絡会という道の駅の関係者の会がございますけれども、国土交通省もこちらにオブザーバーという形で参加しておられます。近年はですね、コロナ禍でなかなか一堂に会する機会がございません。各地域の道の駅の状況について、その時はヒアリングをされたというふうに聞いております。道の駅の支援メニューには国土交通省だけではなくてですね、いろんな各省庁からの様々な支援メニューがございますので、そういったものをまた活用していただきたいということもあったようです。今後ですね、いろんな困り事があればですね、国土交通省としては相談を受けるといふようなことを仰ったというふうに聞いております。

議長 2番中平議員。

2番  
中平議員 最初説明があったように因原の道の駅ですけど、これはもともと道の駅ではございませんで、形がデザイン的ではありますが、使い勝手が悪いという声もございます。もちろん駐車場が狭いという問題はかねてからございました。それから公園の利用についてもですね、広い芝生の部分はあるんですが、遊具と言え、2つ抱きつけば良いようなものが、ちょこっと置いてあるだけで、しかも駐車場からかなり離れて生け垣の裏に隠れて見えてもいないというようなこともあります。この第3ステージの中で謳われている地方創生・観光を加速する拠点というようなところで言いますと、観光での利用になりますと「瑞穂の道の駅」、それから「サンピコごうつ」、今度完成しますが「ごいせ仁摩」、これらの連携が考えられると思います。道の駅、瑞穂の道の駅の改修計画は既に発表されておりますけども、私の耳に入っているところだと、まだ用地問題等のこともございまして、基本計画もできていないという状況であるというふうに聞いております。因原の道の駅につきましては、三江線跡地が町有地でございますのでそのような障害はございませんし、三江線跡地のところへ建物を建てられれば、水害の被害も非常に受けにくいようなメリットもあるように思います。町としてもですね、様々な計画がありますので優先順位からするとなかなか先になりそうなのが十分承知しておりますけども、やっぱり理想的な道の駅ですね、これを目指すためには、早くから検討に入られてですね、基本計画の策定から完成まではそれな

2番  
中平議員 　　りのやっぱり年数がかかると思われますので、早くから計画の策定は関係者との協議、それからもちろんこれは今は産業振興課の所管で動かれるということですが、やっぱりプロジェクトチームということになれば、まちづくり推進課であるとか、もちろん観光協会なんかも含めた一体としたプロジェクトチームを作って、是非取り掛かってもらいたいと思われていますけど、その点については如何でしょうか。

議　長 　　番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長 　　先程来、第3ステージの動きのお話ございました。本町といたしましてはこういった国の支援制度の拡充の動きというのもございますので、こういった動きにも期待しながら、また一方では、施設の方向性についてプロジェクト会議の方で十分検討を進めていきたいと思っております。また当然プロジェクト会議の方で検討してまいりますので、まちづくり推進課とか他の所管課の方も、このプロジェクト会議の方に入っておりますので、こういった形で検討の方進めてまいりたいと思っております。整備の時期につきましては、先ほど議員も仰いましたけれども、町での施策の優先順位がございます。また、財政状況も考慮する必要がございますので、タイミングを見定めて、我々は準備の方をしていきたいと考えております。以上です。

議　長 　　再質問がありますか。2番中平議員。

2番  
中平議員 　　これ最後になりますが、よくあそこで関係者の方とお話をしたり、来場者のお客さんとも話をするわけですが、やはり今の道の駅の改修についてはですね、三江線跡地というものを利用してですね、現在の道の駅を休ませることなく、現状の道の駅の機能そんなに馬鹿でかいものを作る必要はないというふうに思っております、現状の道の駅の機能を多少拡大程度、それから地元の住民がですね、サロンですとか研修会、それらのことで使えるようなスペースもあつたら良いんじゃないかというようなことも話しておりますし、テナント式ですね利用を考慮すれば、例えばコンビニですとか、回転寿司のチェーンですとかですね、郵便局、これは個人的にお話してますと郵便局は今の場所を動かしたいと言っておられます。そういったものを、一体的に利用できないかというふうに話し合っております。そしてこれが完成してからですね、今の現在の道の駅を取り壊して、駐車場拡張或いは公園の整備、こういったものにしてはどうか。こういったことをよく現場の方とお話しております。以上、個人的な部分もありますが、あそこが一体的で利用しやすく、観光客の方も目指して来てもらえる。もちろん特産品のPRをする場でもありますし、観光の資源をPRする場でもありますので、あまり遅くならないように、準備に取り掛かってもらいたいと思っております。以上で質問を終わります。

議 長

答弁はどうでしょうか。  
（「答弁あればお願いします。」の声あり）  
番外野坂町長。

番外  
野坂町長

この道の駅をですね、将来というのは町にとりましても、たいへんにご指摘のとおり重要な課題であります。例えばこのいわゆるすごく限って商業店舗としてだけ見た場合にありましても、これは、近隣の仁摩が直ぐ出来るとご案内ありましたように、瑞穂もやってくるという意味で、商業界の鉄則であれば、リニューアルにはリニューアルで対抗する、施設の老朽化とそういう意味での、次の投資を考える時期であります。その上に、道の駅としては、先ほど仰いましたような情報発信拠点であり、議員が様々なご意見を示しましたまさにそういう機能をですね、しっかり取り込んで次の方向に向かえばですね、これが非常に可能性のある拠点だと思っております。もともとそのやっぱり道路の陰陽の結節点であると。あの場所にあの機能があると。そこに考えられます方向としては、先ほど仰いましたように、所謂テナントで入りたいという声も現に現実的にあっております。それから地域の皆さん方、生活支援の拠点。更に現在、これは国のデジタル化の動きの中で、交付税デジタル化を進めるための交付税措置が動いてきております。そういったことを取り入れながら、例えばですけど、町の窓口のですね様々な機能も因原で出来るような仕組みを考えるとかですね。或いは三江線跡地を考えれば、課題となっております今の防災拠点としてですね、位置付けが可能にもなるうかと思えます。ご提案のありましたようにそこでのリニューアルではなくて、そういう建て替えてやりますと、機能を維持しながらすぐ新しいところに持っていくということで、極めて非常に地元でいろいろと課題を検討され、実現性のあるご提案をいただいたものと思っております。しっかりこれを町として受けとめ、プロジェクトチームを発足させるなどしてですね、これはやはり重要な課題でありますので、しっかりと中身を固めてまたご相談させていただきたいと、このように考えております。

議 長

よろしいですか。  
（「はい」の声あり）  
はい。

々

以上で、2項目めの「道の駅の改修問題について問う」の質問を終了します。

々

これもちまして、中平議員の一般質問を終了いたします。

々

ここで暫時休憩といたします。再開は、午前11時15分から行います。  
（午前11時04分）